

2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学国語）

学校名 久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>設問 14 問中、全国の平均正答率を上回ったのは 10 問、下回ったのは 4 問であった。学習指導要領の「言語の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の 4 領域にわたっての出題で、そのうち「話すこと・聞くこと」の領域では、対象問題数 3 題全てで全国の平均正答率を大きく上回った。「書くこと」については対象問題数 2 題のうち 1 題は全国の平均正答率を若干上回ったが、「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の問題は全国の平均正答率を下回った。また、「読むこと」については全国平均の正答率を 10% 近く上回った問題もあれば、全国平均をやや下回った問題もあり、ばらつきが見られた。最後に「言語の特徴や使い方に関する事項」のうち、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」については『積み重ね』という漢字を正しく書けた児童の正答率は 65.2% で、全国平均の正答率 54.4% を大きく上回った。しかし『転がっている』の漢字は全国平均を 10% 近く下回った。全体的に 4 領域全てで全国の平均正答率と同じか上回っているが、「言語の特徴や使い方に関する事項」では無回答率が対象問題数 5 題中、記述式でないのにも関わらず 3 題全国平均より高かった。</p>
<p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>○漢字の使い方については、3 題中 2 題は全国平均正答率を上回った。下回った 1 題についても 70% 近くの児童が正答している。ただ、3 題とも無回答率は全国の無回答率よりも高かった。</p> <p>●文法にかかわるも問題では、「主語と述語の関係を捉える」および「修飾と被修飾の関係を捉える」の正答率がそれぞれ 50% 台、40% 台と低かった。特に主語と述語の関係については、全国の平均正答率よりも 8 パーセントほど低く、読解の他、作文・日記等の学習においても主語と述語を意識させて取り組ませるようにしたい。</p>
<p>話すこと・聞くこと</p>	<p>○「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」という設問では、全国平均正答率が 77.5% に対し、本校の正答率は 82.1% と高かった。学習指導要領では、「対話的な学び」が重視されるため、国語だけでなく様々な教科・領域でスピーチやディベート、プレゼンテーション等の活動を取り入れていくことが必要である。</p> <p>○「資料を用いた目的を理解する」の設問では、全国平均の正答率を 10% 以上上回った。この設問の評価の観点「思考・判断・表現」であり、習得した知識・技能を課題や目的に応じ、適切に活用できているようである。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」の設問は 70% 近くの児童が正答し、全国の平均正答率をやや上回った。しかし、選択式の設問にもかかわらず無回答率が 1.8% あった。</p> <p>●「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」では、神奈川県の前年度平均正答率よりは若干上回ったが、全国の平均正答率と比べると 2 パーセント以上下回っている。また、この設問の無回答率も 13.4% と高く、記述式の解答に慣れていないか、苦手意識をもっている児童が多いようである。設問に対し、粘り強く考える力を育成するとともに、引き続き、作文や感想文など、「書く」学習に力を入れていきたい。</p>

<p>読むこと</p>	<p>○「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」の設問では、90%近くの児童が正答し、全国の平均正答率と比べても10%近く上回った。資料の文章を正確に読み込み、何について、どのように書かれているのかについて正しく掴むことができていた。</p> <p>●「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約」するの設問では、「要約」することに加え問題形式が記述式ということもあり、正答率は28.6%と今回、14問の設問の中で最も正答率が低かった。もっとも、全国平均正答率も29.7%と低かったが、今回はそれを下回っていた。ただし、無回答率は全国平均よりもやや下回っていたが、それでも4.5%の児童が無回答であった。要約問題については今後重点的に取り組んでいく必要がある。</p>
<p>児童質問紙 国語に関する質問 問 43～51</p>	<p>○「国語の勉強は好きですか」の設問では、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答をした児童を併せると58.9%であり、全国の割合と比較するとほぼ同率である。しかし、「国語の勉強は大切だと思いますか」と「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の設問では、いずれも95%前後と大変高い割合で、全国の割合よりも若干高かった。国語の勉強が「好き」ということと「大切なこと」「社会で役に立つ」ということとは切り離して捉えているようである。</p> <p>●「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」という設問では、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた」と回答した児童の割合が18.8%と全国の割合16.2%より多かつた。問題をしっかりと理解し、最後まで諦めず取り組む粘り強さが求められる。</p> <p>○「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか」という設問では、「当てはまる」と回答をした児童は46.4%で、全国の割合33.8%を大きく上回ってはいるが、割合は50%を切っているため、引き続き、思考力・判断力を高められるよう、指導法の工夫や改善を図っていく必要がある。</p>

2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学算数）

学校名 久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>設問 16 問中、全国の平均正答率を上回ったのは 12 問、下回ったのは 4 問であった。いずれも学習指導要領の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の 5 領域からの出題であったが、どの領域も全国の平均正答率を上回った。特に大きく上回ったのが、「変化と関係」の領域で、「数と計算」「測定」「データの活用」の 3 領域では若干であった。</p> <p>しかし、無回答率に注目してみると、設問 16 問中半分の 8 問で、全国平均の値を上回ってしまった。特に記述式の問題全 4 問では、3 問で無回答の割合が高かった。また、記述式の設問は正答率も低く、4 問中 3 問が 50%未満であった。引き続き、分からない問題であっても諦めずに最後まで解く粘り強さを養う必要がある。</p>
<p>数と計算</p>	<p>○「23 個のボールを 6 個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数」を求める、あまりのある除法の設問では、90%以上の児童がよく理解できている。また全国平均の正答率より 7%上回った。しかし、無回答率も 2.7%あり全国平均より 1 パーセント上回った。</p> <p>●「30m を 1 としたときに、12m が 0.4 に当たる訳を書く」、すなわち「小数を用いた倍についての説明を解釈し他の数値の場合に適用して、基準量を 1 としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」設問では、全国の平均正答率も 50%程度と低いが、本校の正答率は 42%と全国平均正答率を下回っており、また今回の全設問の中で最も正答率が低かった。特にこの設問では問題形式が記述式ということもあり無回答率が 15.2%と全設問の中で最も高かった。</p>
<p>図形</p>	<p>○「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」設問では、79.5%の児童が理解できており、全国の平均正答率よりも 7%上回った。また、「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」設問も 60%近くの児童が理解できており、こちらも全国平均正答率を 4 パーセント以上上回った。</p> <p>●「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」設問では、本校の正答率は、全国平均正答率よりはやや上回っていたが、48.2%と半数以下の児童しか理解できていない。また、無回答率も 5.4%と高く、問題形式が記述式ではあったものの全国平均の無回答率を上回っている。設問がやや複雑になると正答率が大きく下がってしまう傾向が見られた。</p>
<p>測定</p>	<p>○「午後 1 時 35 分から 50 分後の時刻を書く」といったような条件に合う時刻を求める設問は、90%以上の正答率で、全国平均正答率よりも上回った。また無回答率も 0 であった。</p> <p>●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する設問では、正答率は 60.7%で、全国平均正答率よりも 3 パーセント近く低い結果であった。また、無回答率も 1 パーセント程度あった。他の設問でも同様の傾向が見られるが、このように問題形式が記述式の場合、例えば設問が容易なものであっても正答率は大きく下がってしまう傾向がある。また、無回答率も高くなる。引き続き基礎・基本の定着を図っていきたい。</p>

<p>変化と関係</p>	<p>○「二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ」設問では、70%近くの児童が、速さを求める除法の式と商の意味を理解できている。また全国平均正答率よりも13%も上回っており無回答率も全国平均に比べ低い値であった。</p> <p>○「500m を歩くのに7分間かかることを基に、1000m を歩くのにかかる時間を書く」設問と、「分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く」設問では、ともに90%前後の児童が正答している。また、全国平均正答率よりも若干ではあるがどちらの設問においても上回っていた。</p>
<p>データの活用</p>	<p>○「棒グラフから数量を読み取る」設問と「棒グラフから項目間の関係を読み取る」設問については、どちらも90%以上の児童が理解できていた。とくに、「棒グラフから数量を読み取る」設問ではほぼ100%の正答率であり、棒グラフの読み取りは正しく理解できている。また、無回答率も0であった。</p> <p>●「帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」設問では、帯グラフで示された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できるかを見る内容であるが、正答率は半数以下であった。全国平均正答率も52%と低いが、本校ではその値よりも3パーセント程度下回っている。また、無回答率も15%と特に高い数値であった。データの比較についての学習は今後重点的に指導を行う必要がある。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 52～60</p>	<p>○「算数の勉強は好きか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は合わせて80%近くあり、全国平均及び県平均より10%程度上回った結果となった。「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか」という設問には、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は合わせて80%以上あり、これも全国平均より8%程度上回っていた。算数の授業においても、積極的に主体的で対話的な学びを取り入れ、児童の実生活と関連づけながら、一層児童が興味・関心をもって算数の授業に取り組むことができるよう、指導の工夫をしていきたい。</p> <p>●「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」という設問には、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は併せて91%であったが、全国平均よりは若干下回ってしまった。普段からケアレスミスが目立つ児童が多かったり、答えを導くとき、どの箇所で間違えたかが分からなかったりする児童が多いため、計算や文章問題など、順序立ててノートに整理し、見やすくまとめるように指導していく必要が感じられた。</p>

2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

学校名 久木小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

子ども自身に関する質問で、「朝食を毎日食べているか」について、「当てはまる」と回答した児童の割合は、91.1%で、全国平均、神奈川県平均よりも高い割合であった。また、「毎日、同じくらいの時間に寝ているか」「毎日、同じくらいの時間に起きているか」についての質問では、「当てはまる」と回答した児童はそれぞれ約38%、57%で、これらについても全国平均、および神奈川県平均を若干上回った。基本的な生活習慣は全国的に比べたら身につけているように感じるが、割合としては決して高い値ではないため、引き続き家庭と協力しながら改善を求めている。

次に、「将来の夢や目標をもっていますか」という質問では、「当てはまる」と回答した児童は、約55%と全国平均より5%近く低かった。しかし、「人の役に立つ人間になりたいか」という問いでは、80%近くの児童が「当てはまる」と回答しており、全国平均及び、県平均より上回った。この時期の児童は、将来の目標はまだ決まっていないが、将来は何か人や社会の役に立ちたいと考える児童が多いという傾向が伺えた。

学校生活に関して、「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思うか」という質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童が99.1%程度おり、全国平均、神奈川県平均を若干上回っていた。しかし、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問で「当てはまる」と回答した児童は35.7%で、全国平均より8パーセントほど下回っていた。いじめはいけないという規範意識が根付いている一方で、困っている友達に積極的に声を掛けたり、助けてあげたりすることに躊躇する児童も一定数いることが分かった。

地域や社会参加に関して、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問では、「当てはまる」と回答した児童の割合は約24%と、全国平均よりもやや下回っていた。しかし、「地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがあるか」の質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童は65%程度おり、全国平均よりも10%程度上回っていた。新型コロナウイルスの影響があり、なかなか地域との関わりが出来なくなっているが、地域に貢献したいと考えている児童は多いようである。

「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できたか」の質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合は75.9%と、全国平均よりも10%以上上回っていた。さらに、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると思うか」に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合も、全国平均より上回っていた。本校では、昨年度より、「考え、表現することを楽しめる子」を目指し、総合的な学習の時間や生活科の授業を中心に主体的・対話的な活動を多く取り入れながら、研究を推進しており、これまでの取り組みが少しずつ開花してきたと言える。今後もより充実させながら実践を積み重ねていきたい。

また、児童一人に一台chromebookを配布していることや、コロナ禍もあり、ICTを積極的に活用した授業を進めているため、「コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問では、「ほぼ毎日」と「週1回以上」と回答した児童は併せて約70%と全国平均よりも約30%も上回った。また、「普段、1日当たりどれくらいの時間、ICT機器を、勉強のために使っているか」の質問でも「30分以上」と回答した児童は全国平均よりも10%程度上回っていた。引き続き、ICTの様々な活用を模索していきたい。

2021 年度（令和 3 年度）全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 久木小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・いじめを容認する回答が少ないながらも 0.9%ほどあった。勿論、全国平均や神奈川県平均の 2.2%、2.6% に比べたら低い値ではあるが、全児童が「いじめは絶対に許さない」という意識をもつようになるまで、道徳教育の充実等を一層進め、「いのちを大切にする授業」「友だちを大切にしたり、人を思いやる気持ちをもたせたりする授業」を多く取り入れ、いじめ・暴力の未然防止や早期発見・早期解決を目指す。
- ・インクルーシブ教育の充実を図るため、教育相談コーディネーターを核に、教員同士が縦と横の情報連携を一層密にし、連携を取りながら個に応じた指導をきめ細やかに行う。
- ・昨年度より校内研究や逗子市教育員会委託研究で取り組んできた「総合的な学習の時間」「生活科」での「主体的・対話的で深い学び」の展開を一層進めるため、児童自ら課題を考えて解決しようとしたり、話し合い活動を通して、自分の考えや友だちの考えを伝え合ったりするなど、「思考・判断・表現」を取り入れた授業を、引き続き推進し、児童一人ひとりの「生きる力」の育成を養う。
- ・「地域に開かれた学校」、「地域と協働する教員」をスローガンに、地域との連携を一層進めていく。
- ・昨年度より児童一人ひとりに chromebook が導入された。質問紙の「コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用したか」という質問では「ほぼ毎日」「週 1 回以上」と回答した児童の割合が、約 70%以上おり、児童の関心度は高い。しかし、一方で「新型コロナウイルスの拡大感染で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童が半数近くいたため、家庭での学習に ICT をどう活用していくのか、また上手な活用方法等を引き続き模索していく必要がある。また、chromebook を使った実践事例を増やしていき、教員同士で共有を進めていきたい。